

編集後記「約束」と Kwaidan (階段)

怪談 by
おトキちゃん

アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



朝ドラ「ばけばけ」の主演の高石あかりさんが、僕と同じ宮崎出身。応援しようと見始めたのですが、面白くて毎回楽しみにになりました。日本各地の伝承を「Kwaidan」として世界に発信した「小泉八雲」とその妻をモデルとした話。出雲の神々の前で、夫婦としてともに歩む「約束」を交わした2人の今後の行方が楽しみです。(〇〇)

「Kwaidan」には「約束」にまつわる怖い怪談がいくつかあります。(@_@)
例えば、「雪女」。ざっとあらすじを紹介します。



計千本飲ますつても
まるで怪談みたい...

老人の茂作と若い巳之吉という二人の木こりは、森から帰る途中で大吹雪に見舞われてしまい粗末な小屋で一夜をやり過ごすことにしました。

その深夜、巳之吉は、白装束の美しい女性が小屋に入ってきて、年老いた茂作に息を吹きかけ凍死させる様子を目撃します。次に巳之吉の上に屈み彼を見つめたその美しい女性は「あなたは若くて美しいから命を奪わない。しかし、この出来事を誰かに話せば殺します。」と告げて、消えました。



翌年の冬、巳之吉は仕事の帰り道で美しい娘「お雪」と出会います。

両親を亡くし江戸へ奉公に行く途中だと言うお雪と巳之吉は互いに惹かれあい、夫婦となりました。お雪は巳之吉との間に十人の子どもを産み、二人は幸せに過ごしていました。

ある晩のこと、巳之吉は針仕事をしている綺麗な妻の姿を見て、昔、大吹雪の夜に小屋で見た雪女を思い出し、ついその話をお雪に語ってしまいます。

するとお雪の表情が変わり、「それは私、私、私でした。誰かに話したらあなたを殺すと言いました。でも、そこに眠っている子どもたちのために命は助けます。もし子どもたちを大事になさらなかったら、そのときはあなたを殺します。」と告げ、白い霧となって消え去り、二度と戻ってきませんでした。



「私、私、私でした」と3回繰り返すところ。揺らぐ自分の気持ちを一生懸命整理しようとしているのか、何とも切ない場面です。最後には読み手に、巳之吉の驚きや後悔、雪女のやるせない思い、さまざまな余韻がまるではかない雪のように残ります。八雲の「Kwaidan」の中でも、恐怖だけではなく、母から子への深い愛、人間の弱さと哀しさ、それでいて全体的に美しさが感じられる名作ではないでしょうか。



小泉八雲
Kwaidan
(怪談)

浮世の人間関係には「約束」が欠かせません。僕らは約束を繰り返しながら生きているように思います。

仕事の上での「約束」といえば、「始末書」や「反省文」だってそうかもしれません。(^_~)

僕は大学を卒業して就職した会社の試用期間中の掃除の時間、研修会場の窓のブラインドをバラバラにしてしまい、入社2ヶ月で「始末書」的なものを書きました。同期ではもちろんダントツで早かったと思います。(^_~)

その後も「始末書」「反省文」「報告書」の類は、書いたことも書かせたこともある、馴染み深い存在でした。

特に管理者側になってからは部下が書く内容には厳しかったので部下から嫌われていたと思います。僕は「頑張ります」とか「ちゃんとやります」という感じなら、突き返していました。(^_~)

「頑張る」「ちゃんと」は当たり前。そもそもそれを判断するのは自分じゃない。周りの人だ！ってネ。頑張っていたって誰だってミスはある。大切なのは具体的な「約束(コミット)」です。

自分なりに振り返って整理し、できるだけ具体的なやり方や目標を考えて書かせるよう意識しました。

でも、部下が書くコミットとその振り返りは、書かせる側のためでもあるんですね。



※
コミット=
コミットメント

以降、窓のブラインドには
触らないようにしました

「人は教えることによって、もっともよく学ぶ」(ルキウス・アンナエウス・セネカ=古代ローマの政治哲学者の言葉) ですから。

経営者の方から、問題社員の相談やセミナーのご依頼をいただくことがあります。

でもよく話を聞くと、入社10年とか入社20年の問題社員だったりすることもあります。

それは、今までの指導のあり方にも一因があるのではないのでしょうか。

上司と部下のコミットとその振り返りの積み重ねの上に、成長と未来があると思うのです。

それは、Kwaidan、いや「階段」を一步步つ上がっていくようにね。(^_~) ☆



お父ちゃん
フラれたの？

うん雪だけに
フラれるのは
しょうがない

おあとが
よろしい
ようで(汗)